

日韓国交正常化50周年記念特集

公益財団法人 かめのり財団は、日本とアジア・オセアニアの若い世代の相互理解や友好関係を深めるための交流、架け橋となるグローバルリーダーの育成を目的とする事業に助成しています。本年度の助成事業の中から、日韓国交正常化50周年にちなんだ交流を行う事業を紹介します。

韓国民話公演と日本語を学ぶ韓国小学生交流

実施：平間わんぱく少年団

日韓国交正常化50周年を記念し、「平間わんぱく少年団」が9月20日～22日にかけて、韓国の済州を訪れました。20日には済州日本総領事館が主催した日本歌謡大会で日本の伝統的な踊りや和太鼓公演を披露し、21日と22日には済州の道南小学校と白鹿小学校に訪問し、韓国の小学生達に和太鼓の公演のみならず、日本の小学校の国語教科書に載っている韓国の昔ばなし、「さんねん峠」をミュージカルにて披露しました。

済州ではなかなか観られない日本の伝統的な踊りや和太鼓に接した済州の人々と小学生達の盛り上がる様子が今でも忘れられません。日本の伝統美に初めて接した時の興奮と感動、日本

で留学していた私の昔の姿とオーバーラップして、私にとっても、とても有意義な時間でした。

そして、そのような興奮した顔をしていたのは済州の人々だけではありませんでした。済州の人々に素晴らしい公演を準備してくれたわんぱく少年団のために、済州で最高の実力を持っている道南小学校の農楽部がお礼の公演を披露してくれたのです。キラキラした目で農楽公演を観ているわんぱく少年団の子供達を見ながら、日本と韓国が「本当の交流」をしていることを改めて感じました。

どうか、あの時の熱い熱気と感動を皆さんにもそのまま伝えられたらと思います。

報告：趙 賢雅 (2009-2011 かめのり大学院奨学生)

日本領事館にて和太鼓を披露



小学校にて「さんねん峠」を上演

金利恵韓国舞踊公演 in KAWASAKI 金利恵とわんぱくな子どもたち ハナ・トゥル・セ・ネツ(1,2,3,4)! 虹かった～!

2015年7月25日 川崎市国際交流センターホールで開催。日韓の架け橋として活躍している韓国舞踊家 金利恵が、川崎で、和太鼓・伝統舞など日本の伝統芸能を伝承する子どもたちの集団、平間わんぱく少年団と出会った。金利恵は半年間、月に1回ソウルから川崎に通い、子どもたちに韓国舞踊を指導した。金利恵の舞踊公演で子どもたちも成果を発表した。次世代に

繋げることを目的とした日韓交流。

当日の会場は満員御礼の大盛況だった。参加者の方からの声として、「日韓交流について、少年たちに希望を感じた」「子どもたちの真剣さに感動」「リズムや文化に日韓の違いを感じた」「金利恵さんの踊りのすごさに圧倒された」など大好評だった。

報告：青い鳥創業 長井八美



金利恵さんより

寒さの厳しい1月末、放課後の小学校の教室でワンパクたちとの稽古が始まった。新しいことに触れるときの好奇と小さな不安を帯びたいくつもの目が私の顔を見上げていた。韓国舞踊の呼吸とリズム、歩き方、そしてソゴ(小鼓)をもって音楽にあわせ、

いちにいさんし、ハナ・トゥル・セ・ネツ。みんな驚くほどのみ込みが早い。それから6ヵ月、ソウルから川崎へ私は通い、ワンパクたちは稽古にはげみ、その成果を暑い盛り、夏休みの始まった次の日に舞台へ。舞台上で跳びはね叩く彼らにハナ・トゥル・セ・

ネツとかけ声をかけながら私も踊った。彼らも私も一緒に汗をいっぱい流しながら。

みんな、お隣の国の踊り、しっかり体験したね。身体と心のどこかにずっと覚えていてほしい。

南北コリアと日本のともだち展

実施：南北コリアと日本のともだち展実行委員会

2001年に始まった「南北コリアと日本のともだち展」。大韓民国・朝鮮民主主義人民共和国・日本・在日コリアンの小学生が、自分たちが描いた絵を通し、交流を深めるという活動を行っています。2012年からは平壤の小学生に絵を描いてもらう時期に合わせ日朝大学生交流を実施。大学生交流4回目となる今年度は2015年8月21日(金)～29日(土)の日程で、日本の大学生7名が平壤を訪問し、平壤外国語大学の日本語専攻の4・5年生と3日間にわたり交流しました。

交流1日目は平壤外国語大学を訪問。最初はお互いに緊張した面持ちでしたが、自己紹介の時間になると、「名前は何て呼べばいいの?」、「日本語学科を選んだのはなぜ?」などたくさんの質問が飛び交っていました。

2日目は市内観光を中心に交流。平壤名物の冷麺を食べたり、運動センターで卓球をしたりと、一緒に一日を過ごしました。日朝の両学生たちが、趣味の話や恋愛の話など驚くほど「普通の話」ができてうれしいと話していたのが印象的でした。

最終日3日目は平壤郊外の竜岳山でワークショップを実施。思いがけず険しい山道に学生たちは悪戦苦闘でしたが、「ここ滑らないようにね」、「荷物、持つよ」など互いに気遣い、頂上に着く頃には学生たちの距離はぐっと近づいたようで、その後のワークショップでは活発に意見を交わしていました。

3日間の交流を終え、外大の学生からは「これから日本に友だちがいると言えるのは幸せなこと」、「国は違うけど、同じ大学生だから共通点がたくさんあった」という感想があり、日本の学生からは、「ニュースを見る時、知らない誰かではなく、一人ひとりの顔が浮かぶようになった」、「自分で実際に見て、考えることの大切さが分かった」といった意見が聞かれました。

普通ではない「今」だからこそ、普通の交流体験をした学生たち。それぞれの「気づき」を大切に、将来に生かして欲しいと思います。

報告：野口 佐美



平壤市内の小学校訪問の様子。自画像を熱心に描いている小学生たち。協働作業ですっかり仲良くなりました。

ワークショップでの発表の様子



頂上でみんな一緒にお昼ごはん



事業助成説明会を実施

平成27(2015)年度 追加募集において、事業助成説明会を実施しました。

説明会では、IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]代表 川北秀人氏による講義と作業の実施により、参加団体にとって、事業計画や団体運営に役立つ有意義な説明会となりました。

次年度の国際交流事業助成の募集においても、助成説明会を実施する予定ですので、奮ってご応募ください。